

第1回 福知山公立大学ボランティアサークル 6名参加

平成30年5月24日 14:30~15:30

於：福知山公立大学 北近畿地域連携センター Co-Lab. スペース

主な話し合いの内容（★＝団体、◎＝市長）

★サークルの活動紹介。

参加者がそれぞれ思い出深く印象に残っているイベントとどんなボランティアをしたかを発表。

- ・熊本震災募金活動
- ・たけるくんのチャリティーイベント
- ・光秀忍たま武道大会
- ・たんぼラグビー in 京都・福知山
- ・カヌー・ラフティング体験教室
- ・綾部山家観光やな漁
- ・やんちゃフェスタ 2016 児童館まつり
- ・託児ボランティア
- ・福知山ロータリークラブ例会での講演

◎なぜボランティアをやりたいと思ったのか？

★大学に入学してから3日目にこのサークルを立ち上げた。大学に入ったらボランティア活動をしたいという思いを持っていたので、ここにいるメンバーに「一緒にやろう」と声をかけたところ、賛同してくれたので、一緒にこのサークルを作った。

また、福知山公立大学は、地域を大切にしていける学校であるので、私たちも地域を大切にしていけるボランティアができればと考えている。

◎ボランティア活動をやる、または続けていくエネルギーは何か？

★当日の朝、正直行きたくないと思う日もある。しかし、現地に行き活動をして家に帰ると行って良かったと毎回思う。やはり、帰ってからの達成感がエネルギー源になっていると思う。

★市長から見た福知山市のいいところ、好きなところは何か？

◎適度に都会から遠くなくて近い。また、そこそこ都会で便利なところだと思う。さらに、周辺部は自然が豊かである。私にとっては、生まれ育ったまちであり、大切なまちである。

★なぜ福知山市の市長になろうと思ったのか？

◎もともと京都府議会議員をしていたが、ずっと昔から私を応援し支えてくださっている方たちからお話をいただいたのがきっかけである。自分の生まれ育ったまちを首長の立場でまちづくりをしていきたいという思いがあった。

また、自分が生きている間に社会のために何ができるかを考えたときに、次の世代に引き継げるようなまちの基盤を少しずつでも築いていきたいという思いがあり、市長選に出て市長になった。

★福知山公立大学の学生にどういう人になってほしいか？

◎「ミクロ・マクロ」や「鳥の目・虫の目・魚の目」という言葉がある。地域のことを知ることはもちろんだが、地域外にも目を向けて幅広い視野を持ってほしい。

若いということは、前に進む力があるということだと思っている。つまずいて転んでしまうこともあるかもしれないが、そういう体験も貴重だと思っている。どうしようかと悩むくらいなら前に進んだ方がいいと思う。

また、できない理由を考えるくらいなら、できる方法を考えてほしい。

30年、40年後の社会は今の社会と違い必ず大きく変わっている。未来は不確定なものではあるが、自分の進む方向を見つめて進んでいってほしいと思う。

★竜王戦の開催や大河ドラマの制作が決まったが、これからのPRや関連イベントについて、市ではどのようなことをされるのか？

◎竜王戦は誘致に1年半以上かかった。大河ドラマは平成23年から大河ドラマ誘致推進協議会を作ってやってこられた。これまでの取組みが実を結んだことはすごくありがたいことである。

市としては観光誘客や地域経済を含めた活性化だけではなく、福知山市と結びつけPRをしっかりと行っていきたい。関連イベントは将棋で言えば、将棋教室や子ども将棋大会、できれば市民将棋大会などもやっていきたいと考えている。他にもイベントを考えていきたい。

さらに、市民の皆さんが、福知山というまちに改めて愛着や誇りを持ってもらうことが大事だと考えている。さらに、自分たちのまちをよりよいまちにするために、自分たちの手でまちづくりをしようというようなお気持ちの醸成ができればと考えている。

今回の大河ドラマや竜王戦を契機として、シビックプライドをみなさんが持てるようなまちづくりをしていきたいと考えている。

